

# 令和4年度病害虫発生予察注意報第5号

令和4年9月29日  
鳥取県病害虫防除所

## 注意報の概要

9月下旬現在、県内全域においてカキ炭疽病の発生園が認められている。向こう1か月の気象予報（9月22日、広島地方気象台発表）から、今後、カキ炭疽病の発生に好適な気象条件となることが予想され、防除対策を徹底する必要がある。

## 病害虫名：カキ炭疽病

- 1 対象作物 カキ
- 2 発生地域 県内全域
- 3 発生時期 平年並
- 4 発生量 多い

## 5 注意報発表の根拠

- (1) 県西部の現地ほ場において、7月上旬以降に枝病斑が認められた。
- (2) 9月下旬現在、県内全域の現地ほ場において発病果が認められた。
- (3) 9月下旬現在、県西部の現地園4園における平均発病果率は2.3%であり、9月上旬の同園における調査（平均発病果率：1.0%）に比べて被害果率が上昇した（表1）。
- (4) 発病果及び発病枝の病斑上には鮭肉色の分生子塊が形成されており（図1）、今後まとまった降雨があった場合に健全な果実への感染拡大が懸念される。
- (5) 向こう1か月の気象予報から、本病の発生に好適な気象条件となる可能性がある。

## 6 防除上注意すべき事項

- (1) 定期的に園内を見まわり、発病が認められた果実や枝（図1）は直ちに切除して、埋めるか園外に持ち出して処分する。発生園では本作業を必ず実施する。
- (2) 枝病斑を探す際は、主枝や亜主枝から発生した新梢や二次伸長した枝を中心に観察する。
- (3) 防除薬剤は表2を参考とする。
- (4) 降雨量が多い場合は薬剤の防除効果の低下が懸念されるため、累計降雨量100mmを目安に追加防除を実施する。
- (5) 既に収穫直前～収穫期となっている品種もあることから、薬剤防除にあたっては使用基準を遵守する。

表1 県西部ほ場4園におけるカキ炭疽病の発生量（9月26日時点）<sup>a)</sup>

園地	調査果数（果）	発病果率（%）
A	300	4.7
B	300	3.0
C	300	0.7
D	300	0.7
平均	300.0	2.3

<sup>a)</sup>西部農業改良普及所の調査による。



果実病斑



枝病斑



鮭肉色の分生子塊

図1 カキ炭疽病

表2 カキ炭疽病の防除薬剤（令和4年9月26日現在）

農薬の名称	希釈 倍数	使用時期	本剤の 使用回数	FRAC コード <sup>a)</sup>	薬剤のグループ名
トップジンM水和剤	1,000～ 1,500倍	収穫前日まで	6回以内	1	MBC 殺菌剤
ベンレート水和剤	2,000～ 3,000倍	収穫前日まで	6回以内		
オンリーワンフロアブル	2,000～ 3,000倍	収穫前日まで	3回以内	3	DMI 殺菌剤
スコア顆粒水和剤	3,000倍	収穫前日まで	3回以内		
フルーツセイバー	1,500～ 2,000倍	収穫前日まで	3回以内	7	SDHI
ナリアWDG	2,000～ 3,000倍	収穫前日まで	2回以内	7、11	SDHI、 QoI 殺菌剤
ストライド顆粒水和剤	3,000～ 4,000倍	収穫14日前まで	4回以内	M11	マレイミド

<sup>a)</sup>FRAC コードは殺菌剤の作用機構の分類を示す。

（お問合せ先） 鳥取県病害虫防除所（鳥取県園芸試験場内、TEL：0858-37-4211）



この情報は、鳥取県病害虫防除所ホームページでも公開しています。

アドレスは、<http://www.jppn.ne.jp/tottori/> です。

ホームページ2次元コード